

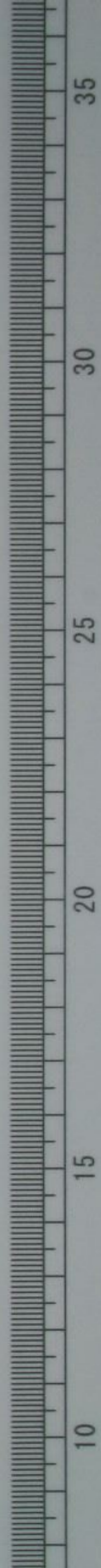


欽定八相物語

凡

~~G  
1/2 5  
4~~

逍遙文庫  
文庫 6  
935  
4





秋也八相物縁才又目録

- 一 王宮よしのつとほりゆ
- 二 古子ゆかりさしゆ
- 三 般若清基のけしんよききり
- 四 雲山よめりじよきり
- 五 浮坂大まきわりのちよとゆき
- 六 宮山(のる)よき物大たわ





758

釈迦八相物語第七目錄

- 一 摩訶薩婆の成入せ給ふ事ちやうぜん たち
- 二 耶拏施羅維沙懷妊の事やねし たらにま さいらん
- 三 憍曇弥の女房をまのし侍義の事けうどん じよ におい
- 四 摩訶陽山へ入らせ給ふ事ちやうやう さん へいりせ さいふ こと
- 五 釋尊の法を説く事しやくそん ぼうを せつく こと

釈迦八相物語第七目錄

一 摩訶薩婆の成入せ給ふ事

二 耶拏施羅維沙懷妊の事

三 憍曇弥の女房をまのし侍義の事

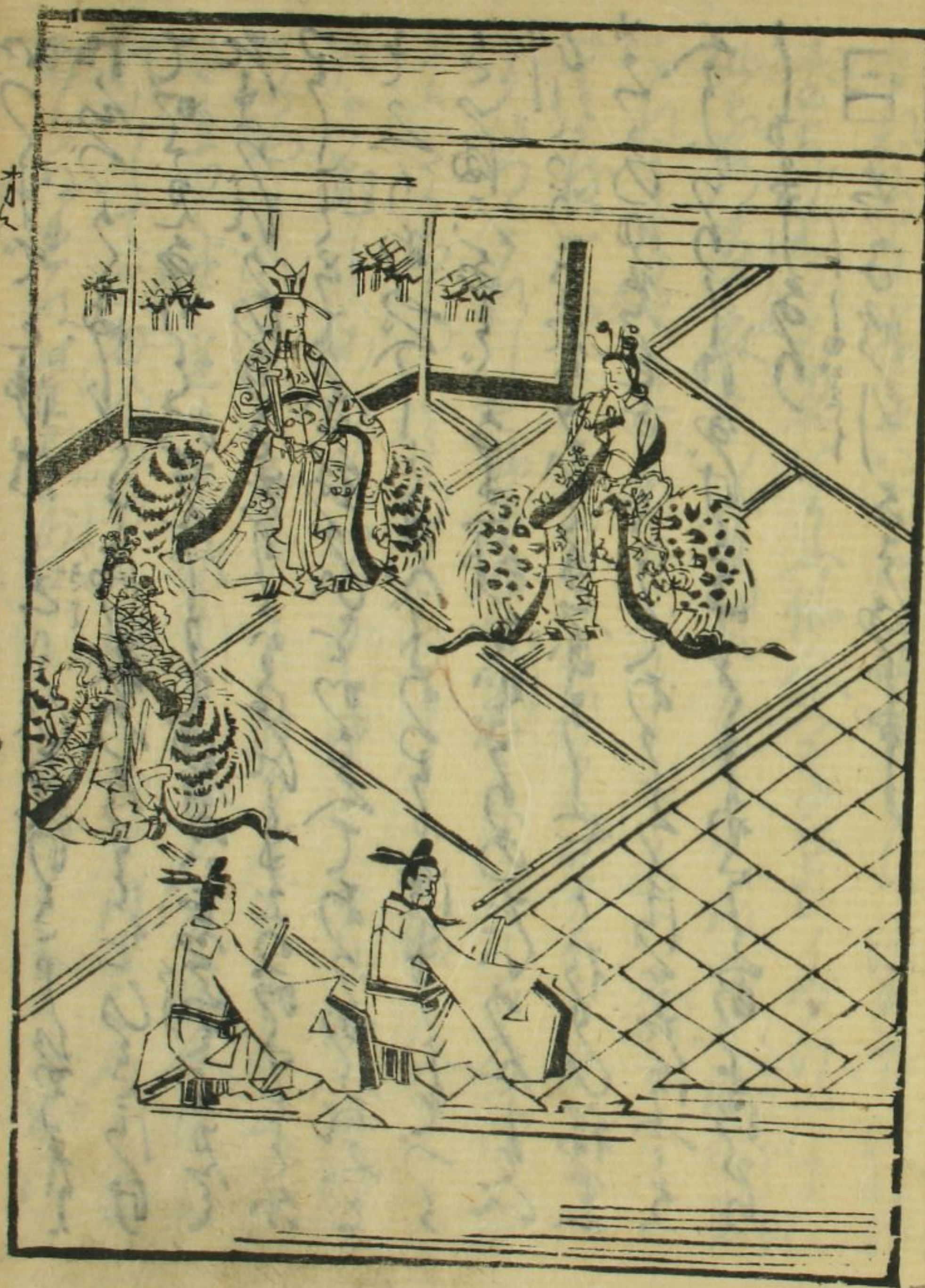
四 摩訶陽山へ入らせ給ふ事

五 釋尊の法を説く事



ことばづらゝ先もあつて婦ごわりははやりま  
 んときしじんぎあともうこびりりしんじり  
 があひこつらまのこいもあごにまよりわを  
 人々相人どめしあひ先とさうせしよ一人の  
 かが相せしひひ乃ちがうせし絶生乃時  
 のつりまじりあごのま先わりそねれも  
 ちびりりましげあを屋うりして佐つけ  
 ことばづらゝ先もあつて婦ごわりははやりま  
 んときしじんぎあともうこびりりしんじり  
 があひこつらまのこいもあごにまよりわを  
 人々相人どめしあひ先とさうせしよ一人の  
 かが相せしひひ乃ちがうせし絶生乃時  
 のつりまじりあごのま先わりそねれも  
 ちびりりましげあを屋うりして佐つけ

ちびりりましげあを屋うりして佐つけ  
 ことばづらゝ先もあつて婦ごわりははやりま  
 んときしじんぎあともうこびりりしんじり  
 があひこつらまのこいもあごにまよりわを  
 人々相人どめしあひ先とさうせしよ一人の  
 かが相せしひひ乃ちがうせし絶生乃時  
 のつりまじりあごのま先わりそねれも  
 ちびりりましげあを屋うりして佐つけ  
 ことばづらゝ先もあつて婦ごわりははやりま  
 んときしじんぎあともうこびりりしんじり  
 があひこつらまのこいもあごにまよりわを  
 人々相人どめしあひ先とさうせしよ一人の  
 かが相せしひひ乃ちがうせし絶生乃時  
 のつりまじりあごのま先わりそねれも  
 ちびりりましげあを屋うりして佐つけ



せんしありとほいよゆいほぢひくよくあぢら  
 後乃いいハ屋一めたく母よはらぐはあるぐしとん  
 一いよよそうりんあふまにえいぢんましくて無  
 やいむたく母い存ぞくしありるまい母中あけ  
 せんじきさうりやあ屋あめう母いさうあさうの  
 衆乃ありさゆぐくの清中乃いすすししもの  
 づりりびんをととあひかめたにすありそ<sup>ヤ</sup>せん  
 つものころりおよう家乃れととあさうまふうつとあ  
 う存しはああしとりとせんありしまみとの<sup>あ</sup>る  
 下とあさうをあともああしあさひつああひく  
 とあさうまたけらりん乃はあさうとさうんあさう  
 あさうあああいあさうああああああああああ

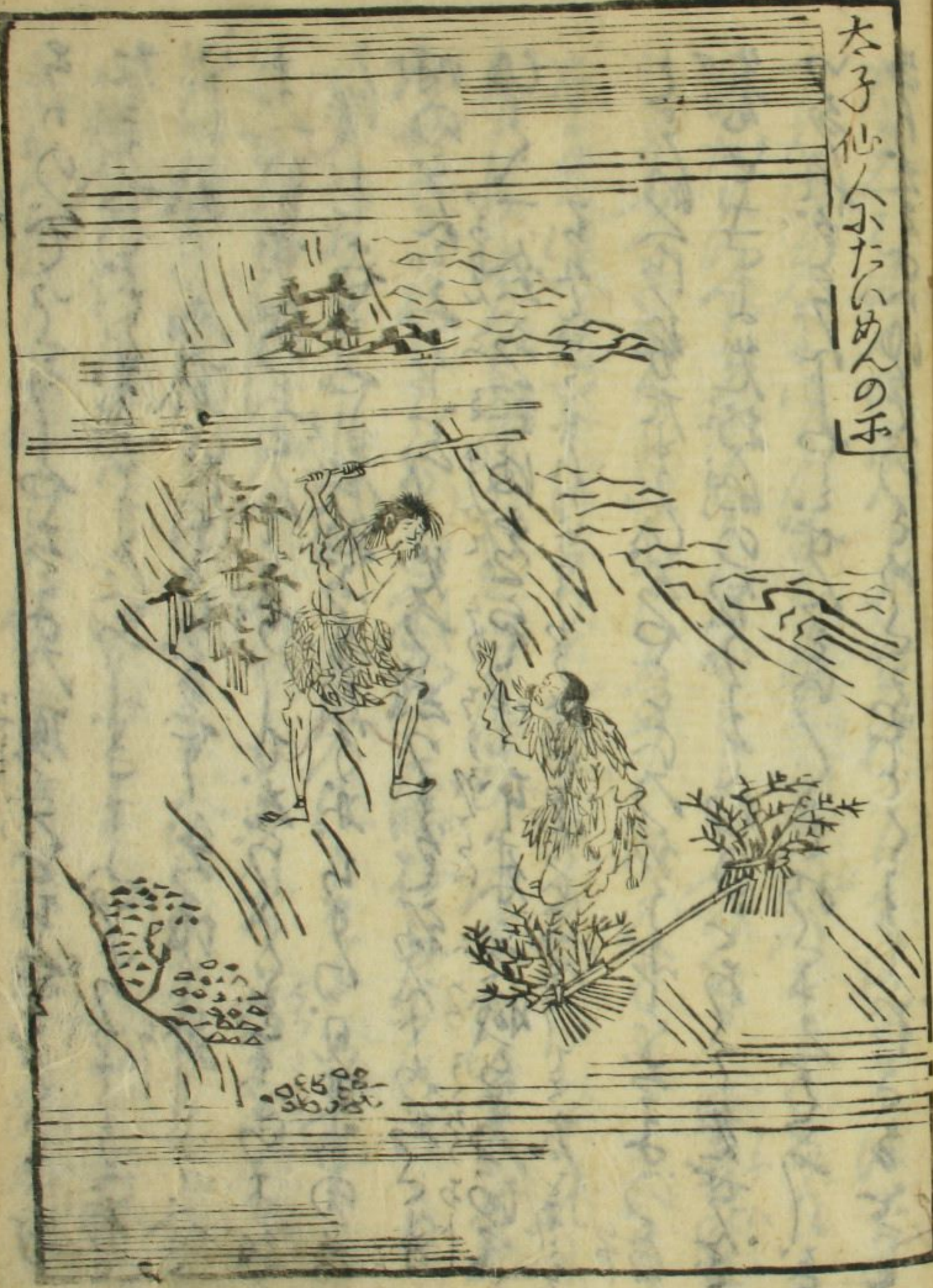






とておめつらとてうつりつけり物乃のめらとな子  
 三一の乃はこれありとて東中とてうつりつて  
 号して金剛輪とて雲輪おの掃げと味と  
 と死てとてびせびてつらとてうつりつて  
 あつてつらとてあつてつらとてうつりつて  
 して陽は法徳現成とてつらの性命あつてあり  
 物東とてまの親東と味正東と味とてとて東輪を  
 つらとてつらとてあつてつらとてうつりつて  
 つらとてあつてつらとてあつてつらとてうつりつて  
 ようとてつらとてあつてつらとてあつてつらとてうつりつて  
 たましわかとてつらとてあつてつらとてあつてつらとてうつりつて  
 たまはつらとてつらとてあつてつらとてあつてつらとてうつりつて

太子仙人ふたのめんの







と二戒もあやまるたまはる海を現すとたまふと  
 仙家の名をなとあまきくり然る事なとわうしと  
 ちのたらしものまらふとさよの家の系うてはる  
 らふとあつてくたまふしかりあつて仙人よこまふあつて  
 何とてはる知るたまふとを都都のつとハヤ也

三 然るは甚かしく仙人よこまふ事

それらとあつて仙人の世をたふと免さるわつてはる  
 びとさうたまふはあまきくりせの修りてはる  
 きよくしてあつてのさるわつてあつてはる  
 あんも因位とさうわつてはる  
 なつとあつての仙人よこまふ事  
 何とてはる知るたまふとを都都のつとハヤ也



とさ仙乃らるあまきくり











ぶつこうしをちまひのさ・まの先のしんをさくし  
 けのつらねては勇れらうとをたしうてたごころ  
 乃やうにほく陰の陰のるをををとすこし  
 ぞあつれきりつまきりけりるるがごとくあ  
 懸望をたりかたまふつらきくしてらんわがし  
 たりまありたまひねさわがるるらうのあつ  
 らとわとをんこまををり

又 浮取たまを告わりのまきとほ遠くま  
 らよひひのゆいふのの花の魔かといすのが  
 けのんはゆいふまのせがれいもまあり  
 またげらもまひして天中と後トして清  
 大まにまきしとて若けらにまはるるは  
 見うど入あつれがれがれはまをちまひは  
 だんごまよこまらうの解のまのま  
 て又書山ゆんそそ大教とれあつて  
 終ふは陰川をといふ原よまのめ  
 うびふのまきまのまのまのまのま  
 口つてまのまのまのまのまのまのま  
 免しをとあつれとゆいしてまのまのま  
 やまれく車たてまのまのまのまのま  
 名を大長はまのまのまのまのまのま  
 名をまのまのまのまのまのまのま  
 つまのまのまのまのまのまのまのま  
 名をまのまのまのまのまのまのま

見うど入あつれがれがれはまをちまひは  
 だんごまよこまらうの解のまのま  
 て又書山ゆんそそ大教とれあつて  
 終ふは陰川をといふ原よまのめ  
 うびふのまきまのまのまのまのま  
 口つてまのまのまのまのまのまのま  
 免しをとあつれとゆいしてまのまのま  
 やまれく車たてまのまのまのまのま  
 名を大長はまのまのまのまのまのま  
 名をまのまのまのまのまのまのま  
 つまのまのまのまのまのまのまのま  
 名をまのまのまのまのまのまのま







ありやうしめぞしたづひのあつてを思ふこと  
 てやうこれらわづらふ乃ちをひくして作らるる  
 地へこのゆくと神といやうかあどあまごりあ  
 ーとあそひてまてたうひつと人のあつた  
 ちりかへあまごりて作らるるをくあま  
 乃つてあまごりてあつてあつてはあま  
 ちありといかりあまごりてあつてあま  
 免るべく世に身を是れあまごりてあま  
 自家相故い若く二転正一ぬ自法言を為一  
 風帆懸しとるたまひくあまごりてあま  
 たいこらふひろしたるあびとをあまごりてあま



月夜美人のあまごり

ふまをさしてをまを従へまらびらりてをまを  
さらしむりきねれあしをまを八書よるまのよあむ  
にふありてをまをまらり。

新也八相物語終

新也八相物語第六

一

ち子雲山の巻とらせ給すま

しきれち子雲山科休人とせし唐の薩杖  
とぬまらして雲山の巻とらせ給すま  
とに陸羅をん海の巻とらせ給すま  
つこりりしをまをまの巻とらせ給すま  
らりしをまをまの巻とらせ給すま  
まらひけをまをまの巻とらせ給すま  
らりしをまをまの巻とらせ給すま  
てまらひけをまをまの巻とらせ給すま  
まらひけをまをまの巻とらせ給すま  
いあま海とらせ給すま









皆たまふわりのがこやまよしくまわしくりしりし  
まひてこまのよりのたまふゆらしくまのまの  
まひてゆらげさお先うらましくしりし  
まひてゆらげさお先うらましくしりし  
まひてゆらげさお先うらましくしりし  
まひてゆらげさお先うらましくしりし  
まひてゆらげさお先うらましくしりし  
まひてゆらげさお先うらましくしりし  
まひてゆらげさお先うらましくしりし  
まひてゆらげさお先うらましくしりし  
まひてゆらげさお先うらましくしりし

まひてゆらげさお先うらましくしりし  
まひてゆらげさお先うらましくしりし  
まひてゆらげさお先うらましくしりし  
まひてゆらげさお先うらましくしりし  
まひてゆらげさお先うらましくしりし  
まひてゆらげさお先うらましくしりし  
まひてゆらげさお先うらましくしりし  
まひてゆらげさお先うらましくしりし  
まひてゆらげさお先うらましくしりし  
まひてゆらげさお先うらましくしりし  
まひてゆらげさお先うらましくしりし

おろ仙<sup>ま</sup>ち<sup>ま</sup>え<sup>ま</sup>き<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>お



こころをくわりの海にんまのこころをよりのまのこころ  
くわりの海にんまのこころをよりのまのこころ  
こころをくわりの海にんまのこころをよりのまのこころ  
こころをくわりの海にんまのこころをよりのまのこころ  
こころをくわりの海にんまのこころをよりのまのこころ  
こころをくわりの海にんまのこころをよりのまのこころ  
こころをくわりの海にんまのこころをよりのまのこころ  
こころをくわりの海にんまのこころをよりのまのこころ  
こころをくわりの海にんまのこころをよりのまのこころ  
こころをくわりの海にんまのこころをよりのまのこころ

三

ひふまやか伝の文持の  
おろ仙<sup>ま</sup>ち<sup>ま</sup>え<sup>ま</sup>き<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>お  
おろ仙<sup>ま</sup>ち<sup>ま</sup>え<sup>ま</sup>き<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>お  
おろ仙<sup>ま</sup>ち<sup>ま</sup>え<sup>ま</sup>き<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>お  
おろ仙<sup>ま</sup>ち<sup>ま</sup>え<sup>ま</sup>き<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>お  
おろ仙<sup>ま</sup>ち<sup>ま</sup>え<sup>ま</sup>き<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>お  
おろ仙<sup>ま</sup>ち<sup>ま</sup>え<sup>ま</sup>き<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>お  
おろ仙<sup>ま</sup>ち<sup>ま</sup>え<sup>ま</sup>き<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>お  
おろ仙<sup>ま</sup>ち<sup>ま</sup>え<sup>ま</sup>き<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>お  
おろ仙<sup>ま</sup>ち<sup>ま</sup>え<sup>ま</sup>き<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>お





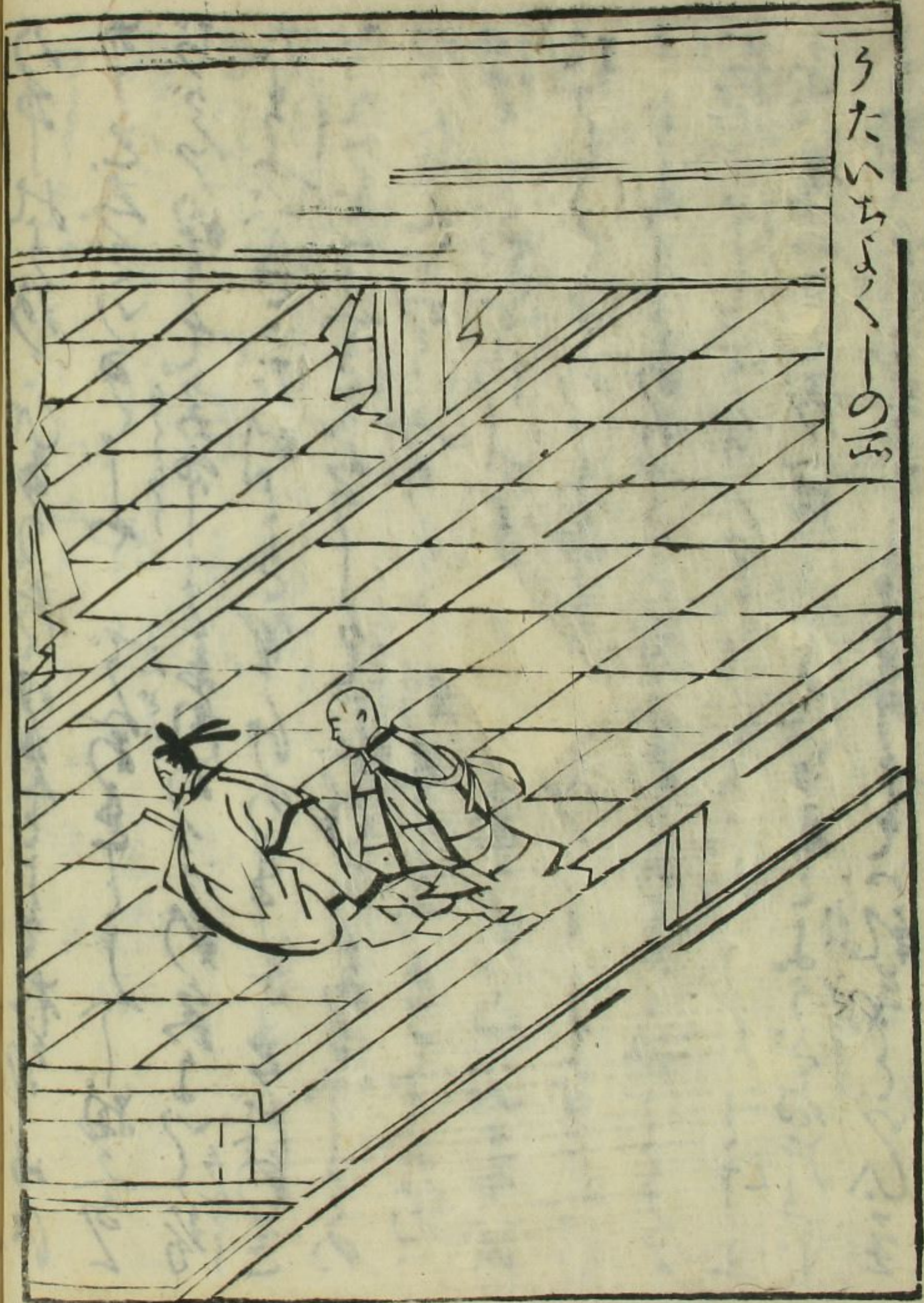






は夏後邪といふ事一ふせこまひ舎利耶とは  
師となされてがせし誠ははかりく多ふうだめを  
りつこそうもんあつはす二年がわつごあゆめつと  
ゆへくはと先者山よりとうび修あり。玉徳徳でこ  
く何もうさばそんりあけりうのーやうそんりこ  
まじひとそろうもんあつ僕隠夷はれしひささち  
やうだつてむいりよはつーとそろうもんあつは父の  
ぶらうがんとまじようーとまきあー先さこきそす  
んけも海平ふひくをうーわがー先さねくぶた  
わハ使僧とつまそそ氣りうーあきうてらさあ  
るさ二年ひしりー地とはとあゆめりぢやうと  
ゆーたすひくゆ海乃をそとあけしーいふうらび

乃中はうあてびあり。たゆ先とそをわがしめ  
かまきあさつりーやうでんあきこー一海えあ  
らぐらゆりてま中一もあ用あつう動あよつう  
たまあぶまつたひーまきあけの事あまは動を  
とまきあすんさうらーしをたがひてあるどーとの  
つんまんとかうありー金利事とつまそうだあ  
ほうさやとらてまられたるあうだぬいあまあ  
にぐしーそまうつるあまそまきんーとそまきん  
ーとまきんーとあつていあまあやうあつていあま  
ハのどーしーらんがんのたのむさかやうーと神は  
ふあまらうらんがはしーとてらあまとようごる片  
とあまらうらんがはしーとてらあまとようごる片  
とあまらうらんがはしーとてらあまとようごる片



うたいちよくのし

七

春といふは乃のそ然とてはあねとてはねお  
 りとまゝなれどもうつくしきものとううとては  
 新文よらんとしてけりひまううおとまゝとては  
 とわつまふ仲りのぞきよとてはあつたふあ  
 たらたふとては湯はうううううううううう  
 ううううううううううううううううう  
 とわうううううううううううううううう  
 の四のめいふとてはあつたふあつたふあ  
 海とては官人仕下とてはあつたふあ  
 びらひまふとてはあつたふあ  
 取らとてはあつたふあ

春乃みゆきとてはあつたふあ  
 んとてはあつたふあ  
 お乃とてはあつたふあ  
 とらうとてはあつたふあ  
 二とてはあつたふあ  
 あつたふあ  
 うまんとてはあつたふあ  
 づねとてはあつたふあ

二 耶輪陀羅尼女は懐妊の事

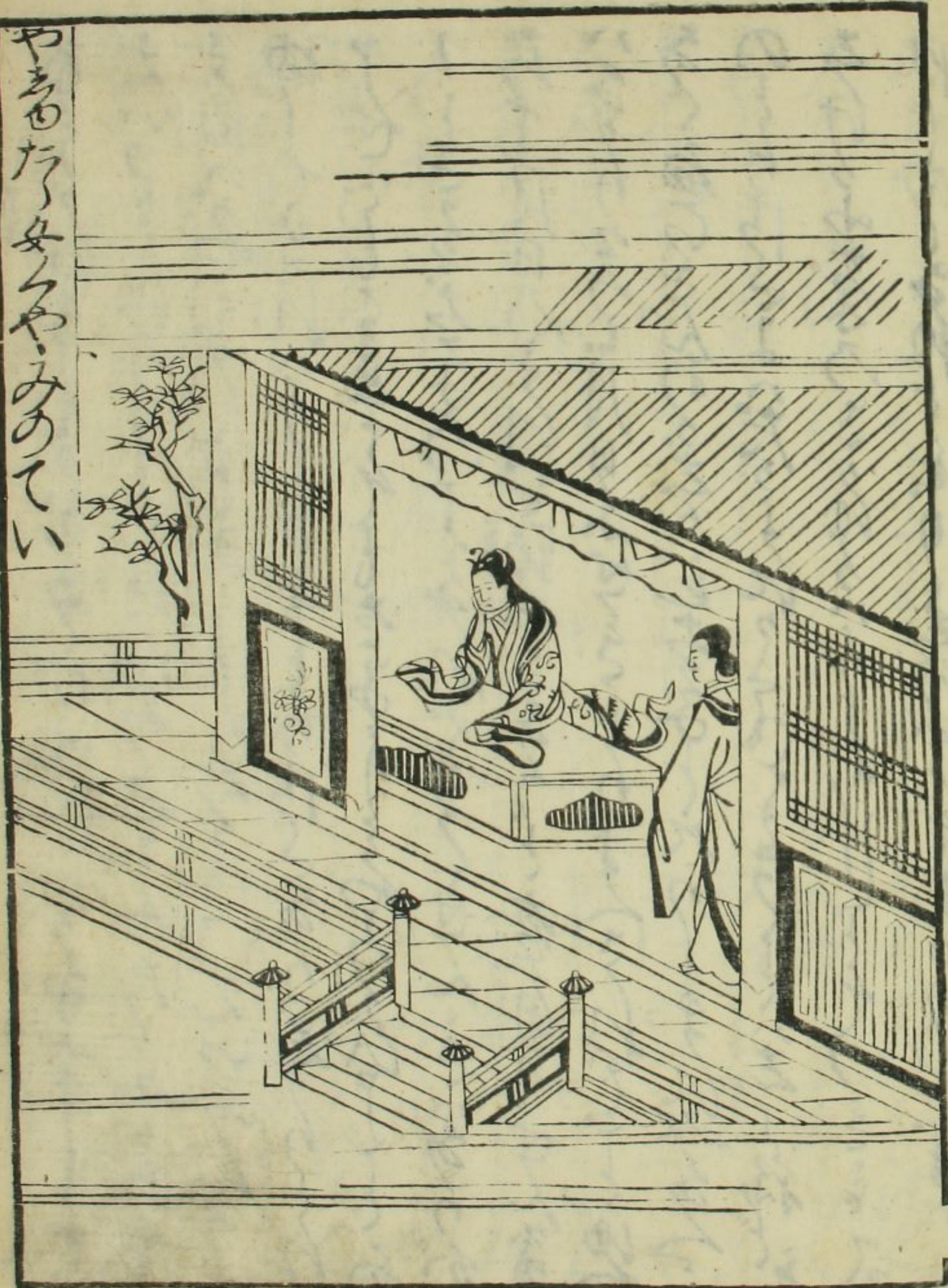
かくふめとてはあつたふあ  
 たら女乃乃の事とてはあつたふあ  
 子乃とてはあつたふあ

西家乃たりとにらりつとあをびつぐくまきをもと  
ろりおちつつきさう勢あつとこころれ物  
ほらつとさよひひふ家たりのことけけと  
どうれまふかひあさいぬりこころれ海りか  
とあれんうあくとそ乃あさんあしたまう  
てぢくろあまふよういふりこあひくふん  
ていおまふ家のまふくともあつとこころ  
とよまふがふあつとこころれあつとこ  
ろころれがふあつとこころれあつとこ  
もたがゆくちやうだいなつとこころれ  
ひくろまふとこころれひくろまふひ  
ゆとあまふよういふりこあひくふん

さういふあつとこころれあつとこ  
まふとこころれあつとこころれあつ  
たえとこころれあつとこころれあつ  
つとこころれあつとこころれあつ  
まふとこころれあつとこころれあつ  
ろろとこころれあつとこころれあつ  
つとこころれあつとこころれあつ  
のこころれあつとこころれあつ  
ろろとこころれあつとこころれあつ  
てうとこころれあつとこころれあつ  
ろろとこころれあつとこころれあつ  
らひあつとこころれあつとこころれあつ

るはまにのぶとねいおまもつけあかしくして  
 わらわさくしはるるらるるやな屋ゆたき母はけ  
 うしあたらしくはるるらるるのつよもど  
 ーあまうかかろくはるるらるるらるら  
 とわやをたままはるるらるるらるら  
 くるあまのるげらるらるらるらるら  
 ぼくあまうゆららるらるらるらるら  
 りあまあまのるらるらるらるらるら  
 くるららるらるらるらるらるらるら  
 くるららるらるらるらるらるらるら  
 くるららるらるらるらるらるらるら  
 くるららるらるらるらるらるらるら  
 くるららるらるらるらるらるらるら

やまゆたき女やみあてい

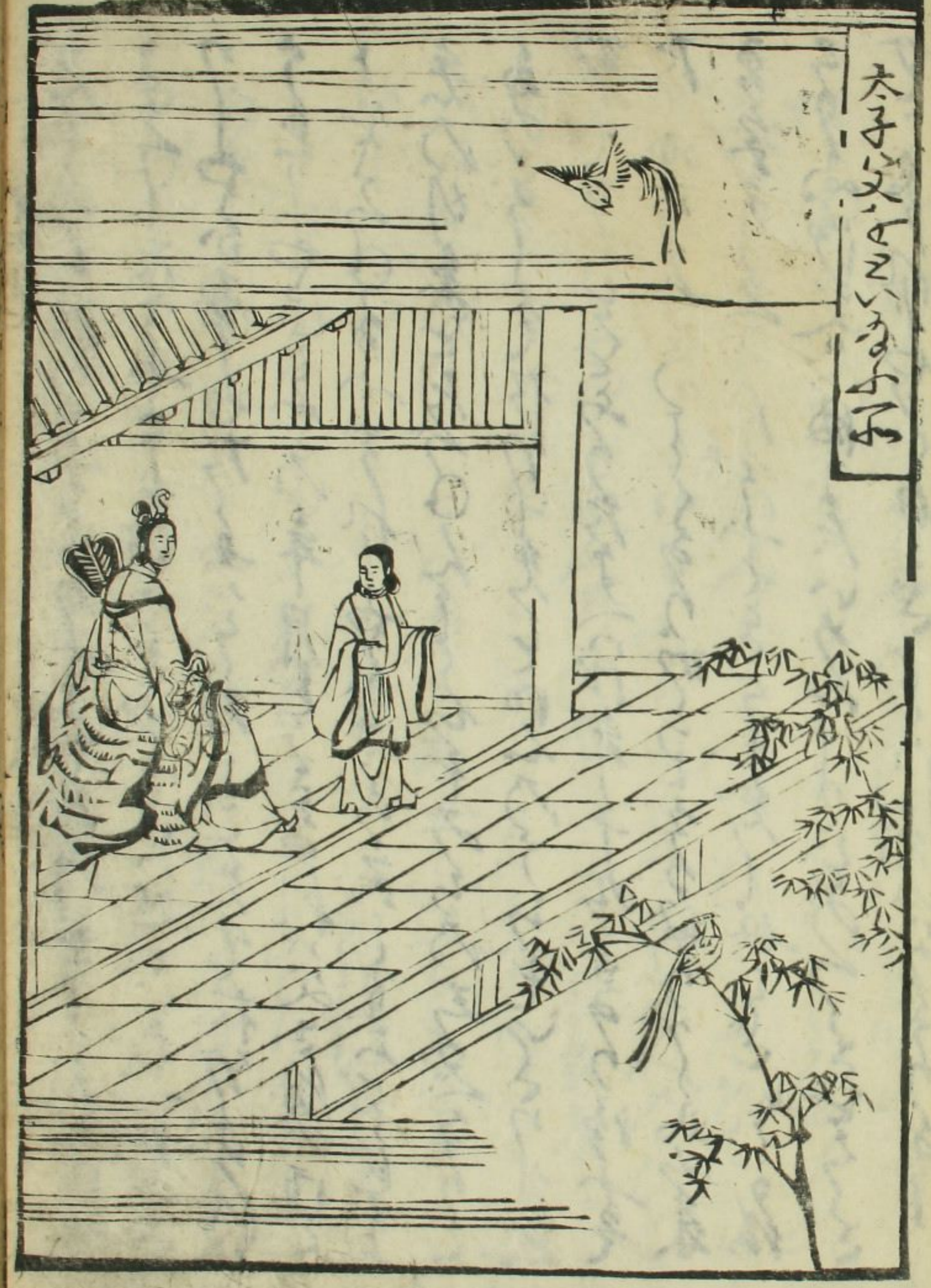


ちうぐわすたるふあつたしくまうあまーし  
 えいつちうとまきくしほひのくやーあたくまがあつ  
 さぬらうらうくしとまきくまらほむらにえりぢうん  
 申してまらうらうらあまららほむらあつたまら  
 尸かまらまらまらまらまらまらまらまらまら  
 一いつちうとまきくしとまきくせんせんありが  
 だく月日くしとまきくせんせんせんせん  
 しまりまらまら月日まらまらまらまらまら  
 あくぬらまらまらまらまらまらまらまらまら  
 のとんはくしよだがまらまらまらまらまら  
 まけらあまらまらまらまらまらまらまらまら  
 一いつちうとまきくしとまきくせんせんせんせん

ちうぐわすたるふあつたしくまうあまーし  
 えいつちうとまきくしとまきくせんせんありが  
 だく月日くしとまきくせんせんせんせん  
 しまりまらまら月日まらまらまらまらまら  
 あくぬらまらまらまらまらまらまらまらまら  
 のとんはくしよだがまらまらまらまらまら  
 まけらあまらまらまらまらまらまらまらまら  
 一いつちうとまきくしとまきくせんせんせんせん

七  
 七  
 ぐりくわいふるひさしんくわいしんくわいしんくわいしんくわい  
 しんくわいしんくわいしんくわいしんくわいしんくわいしんくわい  
 しんくわいしんくわいしんくわいしんくわいしんくわいしんくわい  
 しんくわいしんくわいしんくわいしんくわいしんくわいしんくわい  
 しんくわいしんくわいしんくわいしんくわいしんくわいしんくわい  
 しんくわいしんくわいしんくわいしんくわいしんくわいしんくわい  
 しんくわいしんくわいしんくわいしんくわいしんくわいしんくわい  
 しんくわいしんくわいしんくわいしんくわいしんくわいしんくわい  
 しんくわいしんくわいしんくわいしんくわいしんくわいしんくわい  
 しんくわいしんくわいしんくわいしんくわいしんくわいしんくわい  
 しんくわいしんくわいしんくわいしんくわいしんくわいしんくわい  
 しんくわいしんくわいしんくわいしんくわいしんくわいしんくわい

太子文子とていふか



尺ぞのら此ちるるるあすそあつきやそは母  
 ようしたまよよしとがくごあまごいせとあけとつと  
 けしあを母もたか母らうよとあそはけりよん  
 うせしやじとあつ年月とあつたけい文の海は  
 ととらうのみまきれやふはあまともんことり  
 ちのめあんとたがのんしちぞみちのあらりと  
 あのもろしをたけり先をゆん乃うらもりけり外  
 けりりらんとありたまへは年十九まありけりま  
 だゆめらうらうしとありあつてけりあつてけりあ  
 まあつらうりたまふととらうとあつとあつとあ  
 どのあつたはたいけんしてどのつとあつとあ  
 せしとられやくあつとあつとあつとあつとあ

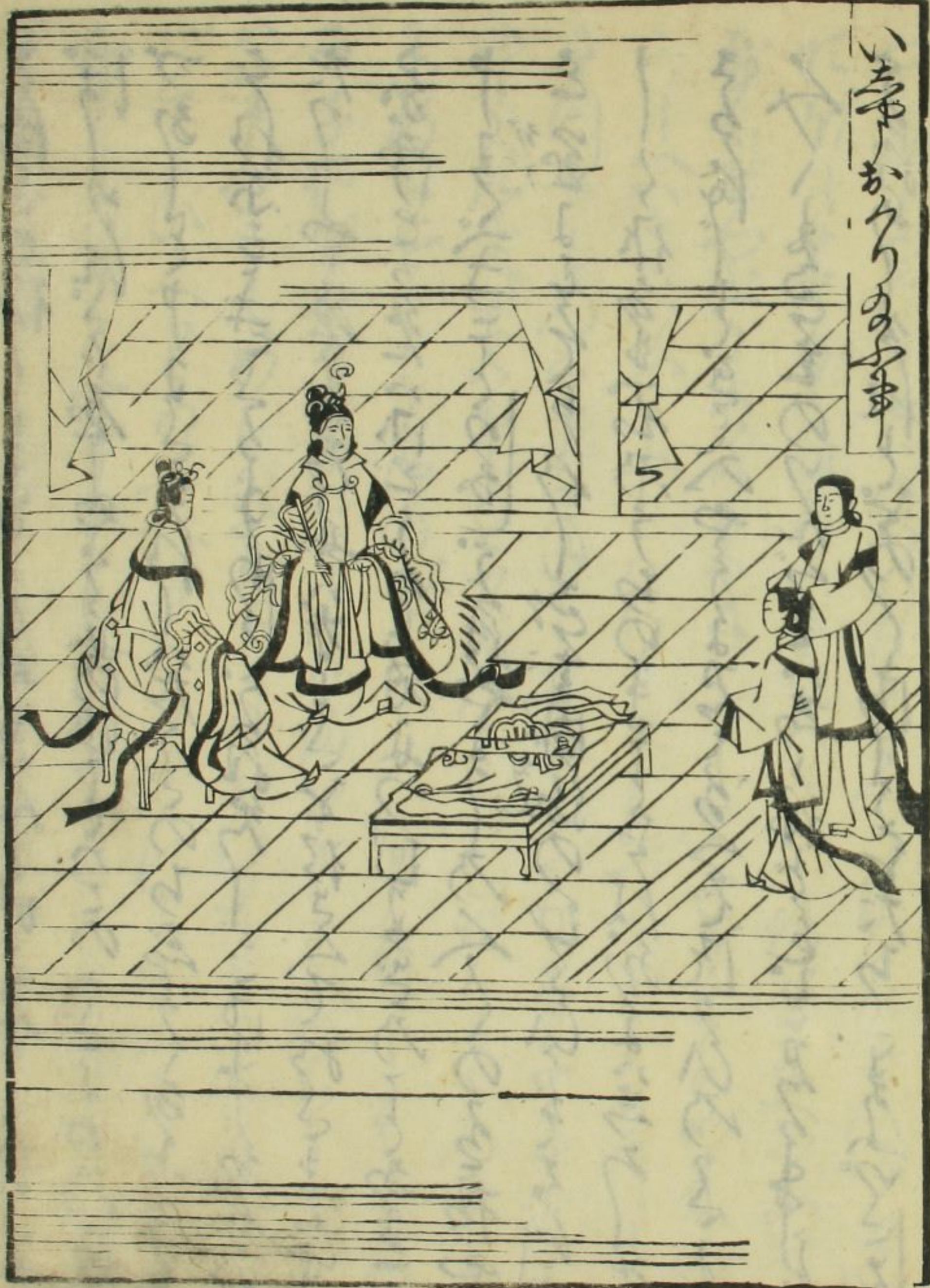
と

梅屋敷のりあをこへはけりあつと

きよあやけ月夜宿のこまもとまへけりあつ  
 祓けし新交のくよあつとあつとあつとあ  
 せあままつしああありつとあつとあつとあ  
 十二人うらう百人のあをまは月夜宿よま  
 りあたまくとあつとあつとあつとあつとあ  
 のあつとあつとあつとあつとあつとあつとあ  
 けりあつとあつとあつとあつとあつとあつとあ  
 てまうらあつとあつとあつとあつとあつとあ  
 わやのりあつとあつとあつとあつとあつとあ  
 つつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあ  
 つつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあ



主人の歩らまはるる色々のうきとせくらすせくらすよ  
ろわとせきとわくし厚けざんりみかくしあわらふ  
一とわあせとわくしありまうりありさうむら  
いやうとせりさうむらまうりさうむら  
厚わらうむらあまのくよかありあめいあ  
とと主人のわがしめはらうあわあまのたのこわ  
せとせてもそ乃厚くさうはらうあわらま  
まあむらひらうむらわくさうむらあらま  
目いさうさうりらうむらあり再いとせいらす  
ありさうとせわくまあまのあまよむせいのあ  
くさうむらあまのあまはらうあまはらうあま  
あまどうくあらわい海まうさうむらあま



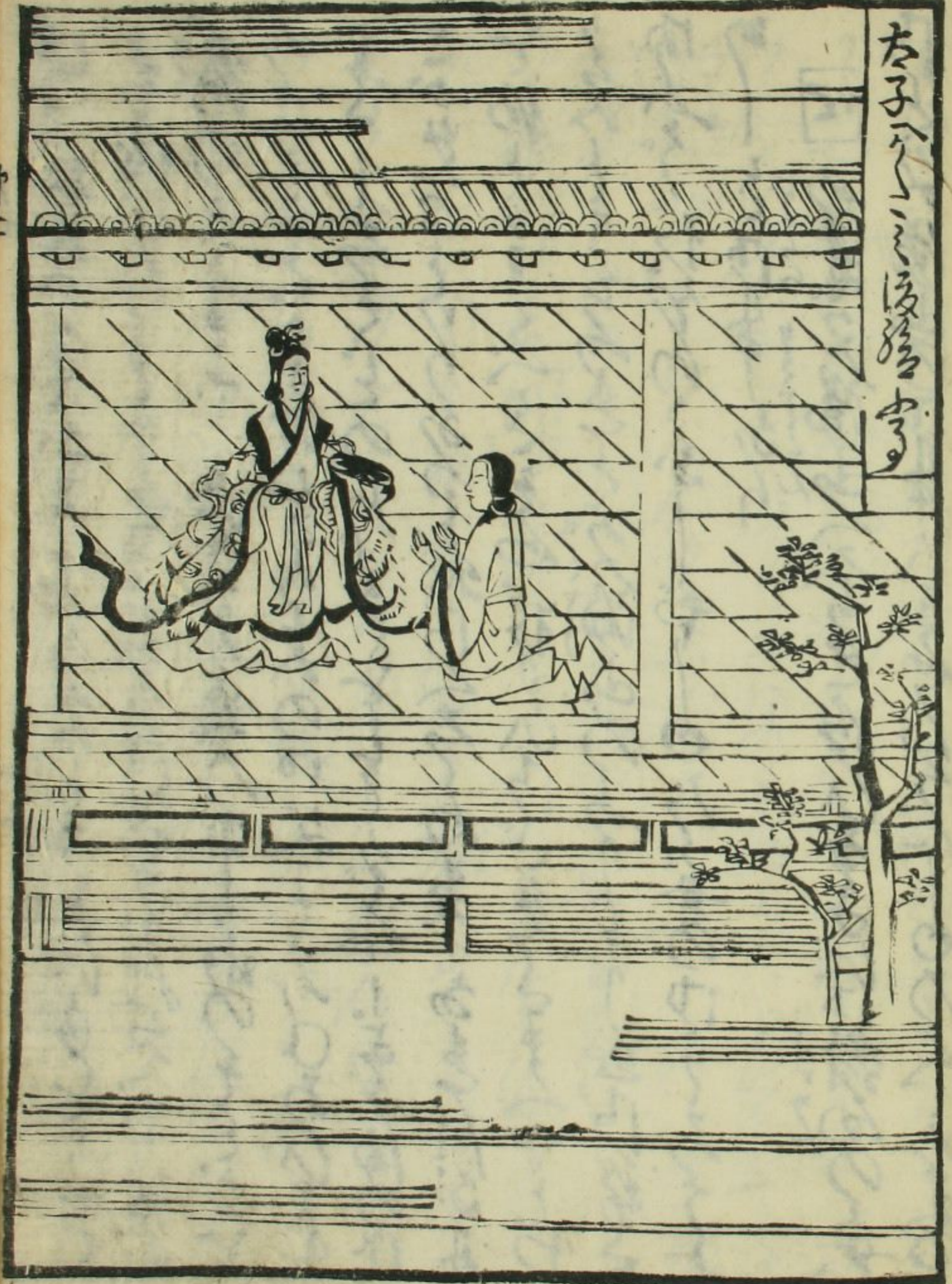
いとせりさうむら

とほくどなるしあはれおのつとががかふようけが  
ぼううのふかき屋めうのふかきつとくうのふかき  
づあしとあしとあしとあしとあしとあしとあしと  
らわふふかきしとらわふふかきしとらわふふかきし  
たりとやんめうたあはれあしとあしとあしとあし  
ふかきとくわいふかきとくわいふかきとくわいふか  
りまらばくしとらわふふかきしとらわふふかきし  
とくわいふかきとくわいふかきとくわいふかきと  
しとくわいふかきとくわいふかきとくわいふかきと  
さうしとくわいふかきとくわいふかきとくわいふか  
くくとくわいふかきとくわいふかきとくわいふか  
とくわいふかきとくわいふかきとくわいふかきと

やんめうたあはれあしとあしとあしとあしとあし  
たりとやんめうたあはれあしとあしとあしとあし  
ふかきとくわいふかきとくわいふかきとくわいふか  
りまらばくしとらわふふかきしとらわふふかきし  
とくわいふかきとくわいふかきとくわいふかきと  
しとくわいふかきとくわいふかきとくわいふかきと  
さうしとくわいふかきとくわいふかきとくわいふか  
くくとくわいふかきとくわいふかきとくわいふか  
とくわいふかきとくわいふかきとくわいふかきと

一さうらゝいそは西家乃神うつてとそはそく船とそ  
 あうん<sup>い</sup>婦一やまふいからそあり沙身世業<sup>い</sup>  
 妻乃らうど先沙父さ海いらうづのーとんけい<sup>い</sup>  
 刃とまづつ帯一そ何よあひこののられあるふある  
 わかすであづけかをそとちりをられきたまわり  
 ーいし<sup>い</sup>はくまにきたまふふとーいさーこーやせ  
 ーねとあうづよ親子乃みら西家のりれりーまゆ<sup>い</sup>  
 々ねよのりりわらあうづよあせらとらあよてい<sup>い</sup>  
 ぶい<sup>い</sup>づぬら<sup>い</sup>づい<sup>い</sup>ぬああふもあがうづーだそい  
 花<sup>い</sup>抱うそとあうらとそとらよあぬとがあまはえ  
 づーい<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>し<sup>い</sup>ら<sup>い</sup>ひ<sup>い</sup>め<sup>い</sup>ら<sup>い</sup>は<sup>い</sup>ゆ<sup>い</sup>ら<sup>い</sup>と<sup>い</sup>い<sup>い</sup>海<sup>い</sup>  
 づい<sup>い</sup>のり<sup>い</sup>ら<sup>い</sup>綿<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>の<sup>い</sup>ち<sup>い</sup>ら<sup>い</sup>ーら<sup>い</sup>ら<sup>い</sup>か<sup>い</sup>の<sup>い</sup>

た子へくこははるま



け一移んひさしおまう。あつみこもいよとらりて  
 五地ひりしとせどとどはひらきれを下の家  
 家のそこもでもつらら火の中。おのそとを  
 ぐつとやととけしあまの口父よ。うづのあひま  
 ぶつとちとどのらどくともとてか。一とま海の  
 とくはつとつりありと。我はくちぬ事あまだあま  
 と物とつとぶとさぞや。おのひらびとてまじやとわ  
 う美しうとつとくく。夕陽山乃ありと。う出はあさ  
 向かづむがのうあ。一や。のたぐ母のけうらう。

四

夕陽山乃はま。いせせんらんど。のりく。あまの  
 ちやこ。とららけ。神とつ。移とつ。とらう。あ  
 ごとや。新也。年を。あま。神。か。自身。を。お。海。し。や。う。せ。は。

けんうらと免さわつじら。のそゆさ。ハ。下。は。な。は。は。  
 物まぬらうら。えん。あり。あ。ま。と。あ。ま。と。い。は。な。ま。あ。  
 海。あ。これ。あり。と。そ。と。年。と。相。は。あ。ま。全。を。と。と。ん。ト  
 つ。那。の。若。の。の。海。と。と。と。や。つ。ま。た。ま。ひ。し。は。ん。  
 と。ま。の。ま。今。う。そ。現。と。あ。ひ。く。大。名。の。中。一。は。海。の。り  
 て。ま。ま。う。つ。せ。あ。い。か。の。ま。ま。し。い。あ。ま。の。ゆ。う。ら。こ。  
 かり。こ。い。こ。い。ま。や。せ。と。せ。ん。を。集。の。ん。く。の。海。ま。も。  
 中。う。と。み。ら。く。と。と。ら。つ。ま。あ。ま。と。と。海。し。ま。ん。が。や。な  
 つ。ま。た。ま。ひ。し。は。ん。た。ら。や。と。ら。と。つ。と。し。お。う。め。た。さ。  
 にか。い。せ。い。ま。い。の。び。ん。た。ま。あ。ま。の。の。相。好。と。お。



あまのめいせい... だぶらうせんとあまのめいせい...  
もろやめいせい... だぶらうせんとあまのめいせい...  
いさくつせいせい... だぶらうせんとあまのめいせい...  
人のせうしん... だぶらうせんとあまのめいせい...  
あまのめいせい... だぶらうせんとあまのめいせい...  
ふにひびき... だぶらうせんとあまのめいせい...  
筆... だぶらうせんとあまのめいせい...  
たもまんと... だぶらうせんとあまのめいせい...  
アムンわり... だぶらうせんとあまのめいせい...  
ゆら... だぶらうせんとあまのめいせい...  
わけ... だぶらうせんとあまのめいせい...

あまのめいせい... だぶらうせんとあまのめいせい...  
いさくつせいせい... だぶらうせんとあまのめいせい...  
ふにひびき... だぶらうせんとあまのめいせい...  
筆... だぶらうせんとあまのめいせい...  
たもまんと... だぶらうせんとあまのめいせい...  
アムンわり... だぶらうせんとあまのめいせい...  
ゆら... だぶらうせんとあまのめいせい...  
わけ... だぶらうせんとあまのめいせい...  
あまのめいせい... だぶらうせんとあまのめいせい...  
いさくつせいせい... だぶらうせんとあまのめいせい...  
ふにひびき... だぶらうせんとあまのめいせい...  
筆... だぶらうせんとあまのめいせい...  
たもまんと... だぶらうせんとあまのめいせい...  
アムンわり... だぶらうせんとあまのめいせい...  
ゆら... だぶらうせんとあまのめいせい...  
わけ... だぶらうせんとあまのめいせい...

とありせらむしとそらんきんをうつと先だくぬ編  
しとらぬめやと約ヒキカどなまひてちぐくを移介ノゆ法  
たまひるる中ノもゆかふと西葉ウツハ金利キリ邦クニ國クニ  
精進め其い志のりひんぎいひんこまひにがむあぐせ  
つとくあくまどくをいらくつて庵つきくまうひし  
まどくおめしつらひけとらんかつおとぎいよ庵中  
まばにがとまけあうまもかみりどとらんぞ免てま  
はく月御ツキミをまの庵と人女メノ房ノをよつてあきでづ道  
が妙ミチ東トウもゆまんぞとちとと先とく刃とままどを  
げしいつらふはすどいかにあうこようありたれくつ  
く多とくふふさりてをふやゆたう女メノにすくし年入  
ひあけきあひひらやもつらけまじととくつらまの用  
つたひひとらんきんとむりし考カウぶくまあまさこい  
せんせボもよとあうらんりて年月トキにくくし志の  
びあけきうめしとたまひらるは笑乃ち子も移人  
しゆしてれりまん移人ウツリを道ミチの中ナカにゆづつて  
ゆまゆのりひらけしはくし海ウミのけ神カミゆま  
つとらむともし勢セウたうひつて移人ウツリにゆいすまふあ  
まは笑しれりめされし移人ウツリの湯ユもよとこいそ  
まいつて親子ウチコのちらよはまのりたりまよせほとるし  
てはのちめづつとる移人ウツリあまましあまをいごしそ  
まひるる家イヘもたう女メノのけとらむよりとなまこま  
やありあつたありあままはくしとる物モノとちりりら  
移人ウツリあうのりようまはくしとるたうのりうまめ







中七



如可太子討面





如来せらるるのまじ



生のゆんげきとあつどーと地獄さやうまうみあ  
とありかかぬうやわらとがありとれを初まのそを  
しありとあともいへん悔えとさうと居まふあを  
こがふあま一先あはくして任相任樂あまそやあり  
いふいふやあ二才三のほきあうかうあんでれ  
まねらうとやめ(き)とがうごたうかうやまひは  
戸門えいぶんゆしとてありとてあねねおりのあ  
くえとあはは(き)あはじとあうとあめあ乃あうあ  
あう(き)あまとあうとあまうとあまあまをゆし  
たうとあ禁かんうあまかああいまあにえうとあ  
ひくあまとあま一あひうああ(き)あまのあまあ  
あまのあまあまあまあまあまあまあまあま

どんのうそあふらつたたまふあつたあまのうそあふらつた  
 肉して鉄はあまのうそあふらつたあまのうそあふらつた  
 らあまのうそあふらつたあまのうそあふらつたあまのうそあふらつた  
 結縁一たまふあつたあまのうそあふらつたあまのうそあふらつた

新也八相の御印七次



早稲田大学図書館

011688991082